

令和5年度 正智深谷高等学校自己評価シート

目指す学校像	建学の精神「優しく勇気があり、強い人間として生き、すべての人間の救われる道を説いた法然上人の教えの上に立つ」との本校建学の精神ならびに校訓「選択・専修」を踏まえ、 1 自己肯定感を育むとともに、自分で考え決断し行動できる人間・他者を認めることができる人間を育てる。 2 問題解決に協働して取り組み、他者に貢献できる人を育てる。 3 夢（ビジョン）を持ち、そのための地道な努力を継続できる人を育てる。
---------------	--

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

第三者評価委員会	
（学校評議員 3名）	開催予定日
	令和6年2月3日

重点目標	1 進路指導を充実させ、進学実績を向上させる 2 入学者の定員確保に向けた募集・広報体制の充実 3 浄土宗門関係学校としての教育推進 4 教育活動におけるICTの活用と実践
-------------	---

学校関係者評価委員会		
学校評議員	3名	開催日
学校関係者評価委員	10名	令和6年2月3日
自己評価委員(教職員)	12名	

領域	学校自己評価						第三者及び学校関係者評価			
	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	委員からの意見・要望・評価等		
1	・埼玉県北部の私立高校として本校は進学校をめざしてきたが、その評価が確立されていないのが現状である。特別進学系では一般選抜対策を充実させ、国公立大学や難関私立大学への合格者数増加をめざし、進学校としての評価を確立させる。総合進学系では進路ガイダンス・推薦入試対策指導を積極的に行い、多様な進路ニーズに対応しながら、大学進学率の向上をめざす。	・進路状況が進学校をめざす上でふさわしい状況か。	・進路ガイダンスを行い、進路研究に取り組む環境づくりを行う。 ・大学の教員を招き模擬講義を実施し、進学意欲や学びの意欲を向上させる。 ・受験学習の方法を具体的に知ることができる説明会を実施、進学資料集を発刊する。	・大学進学率の状況。国公立大学の合格者数。難関私立大学の合格者数。 ・一般選抜受験者数、大学入学共通テスト受験者数の状況。 ・進路行事の実施状況の検証。	・令和6年3月に卒業した生徒の大学進学率は78.6%・短大進学率は1.7%で、あわせて80%以上の進学率となっており、概ね目標は達成することができた。国公立大学の合格者数は20名であった。 ・大学入学共通テスト受験者数51名。 ・進路行事については年間指導計画をもとに予定通り実施することができた。	b	・一般受験生徒の増加を見据え特別進学系での進路指導体制の更なる充実。国公立等の合格者の更なる増加。 ・特進での生徒募集の増加を目指し、説明会や訪問等の回数・時期・質の見直し。 ・放課後の受験学習個別指導や居場所づくりなど新たな取り組みの検討実施。	・推薦入試指導が充実しており、面倒をよく見てくれていると思う。		
		・進路指導を中心として多様なニーズに応えた取り組みがなされているか。	・指定校数の増加のために進路指導教員を中心に積極的に大学と交渉する。 ・医療系進学者のための講習・講演会を行う。	・大学指定校数の状況と新規指定校大学数。 ・医療系講習の実施や分野別進路指導の実施状況。 ・学校評価アンケートの進路指導に関する回答状況。	・成城大学文芸学部、國學院大学法学部、芝浦工業大学など複数の大学で新規の指定校を増枠することができ、生徒の進路選択の幅が広がった。 ・医療系分野の進学者が増加した。理工系・文系分野の学部別志望理由書・小論文個別指導も効果的に実施ができた。 ・学校評価アンケートの進路指導に関する質問項目は生徒・保護者ともにすべて高い肯定的評価を得た。		a		・医療系合格者増加傾向（62名）。 ・志望理由書、小論文指導以外にも、生物・化学などの教科受験対策の強化策の検討実施。 ・指定校のさらなる増枠を目指し、進学先大学との連携を強化。	・医療系に進学したいというニーズに応えた進学指導がなされていると感じる。今後はさらに医療系の指定校枠を増やしてほしい。
		・進学校をめざす上での教科指導が適切になされているか。	・各教科における組織的な指導計画の構築、シラバスの作成。 ・適切な学習課題や家庭学習習慣の定着に向けた指導の実践。	・各定期試験実施後の点数分布の状況と教科会議での現状分析。 ・カリキュラム・シラバスの再点検。 ・学校評価アンケートの学習指導に関する回答状況。	・教務を中心に定期試験の平均点・点数分布の検証を行い、各教科での議論につなげることができた。 ・シラバスを作成し、教科ごとに学習進度の調整や確認を行うことができた。令和6年度入学生からは新カリキュラムを導入し、多様な進路指導に対応したカリキュラムを構築した。 ・今回生徒の評価アンケートは極めて良好であった。27の質問中16項目で10P以上伸びた。				a	・今回生徒の評価アンケートは極めて良好であった。27の質問中16項目で10P以上伸びた。
・少子化・人口減少の中においても安定した生徒募集による定員確保をめざすために募集・広報体制を充実させる。	・本校の特色ある取り組みや強みをアピールし単願受験者数を増やすことができたか。	・インターネットやSNSを活用した広報活動を行う。 ・各種イベント（募集活動）を充実させる。 ・丁寧な個別相談を心がける。	・ホームページの閲覧件数。 ・各種募集イベントや個別相談への申込件数。 ・入学試験の受験者数。 ・入学者数（手続者数）。	・ホームページとX等に関して毎日更新。閲覧数は大幅に増加（2.5～3倍） ・公式インスタ毎日更新(3/25より)フォローワー約1.5倍 ・各種イベントへ申込数微減。個別相談数約10%減少。 ・入学者数は324名、単願の受験者数は262名、併願の受験者数は889名でいずれも前年度より減少した。	b	・入学者数確保目指し積極的募集・広報活動実施。特に特進の強化。特進インスタ開始。 ・説明会等の時期、回数、中身の検討と改善。生徒や保護者の方の協力等も検討。 ・地域や中学校・塾での変化も調査、改善策の検討。		・女子の在籍数が増えてきているので、女子が活動できる部活動が活性化すると、募集にもプラスになるのではないか。		
・浄土宗の宗立宗門関係学校として、建学の理念である法然上人の教えを学び、校訓である「選択（せんちやく）」「専修（せんじゅ）」の実践に結びつける。 ・日本の伝統文化や寛容の精神、忠恕の心などを大切にできる生徒の育成に努める。	・茶華道の授業を通して仏教精神を学び、日本の伝統文化への理解を深めることができたか。 ・宗教の役割、意義に関する学びを宗教行事を通じて実践することができたか。	・建学の精神や校訓「選択・専修」に基づく人間形成を日々の教育活動を通じて身につけさせる。 ・仏教精神や日本の文化について、宗教教育を通じて学び、基本的な知識を身につけさせる。	・建学の精神の具現化に向けた取り組みができたか。 ・宗教行事や茶華道の授業を通じて日本文化における宗教の意義や「尊ぶべきもの・守るべきもの」について学ぶことができたか。 ・人間として尊厳を持って生きることの大切さを学ぶことができたか。 ・学校評価アンケートの宗教教育に関する回答状況。	・宗教行事で実施した写経や茶華道の授業を通じて仏教精神の学びを深めることができた。 ・宗教教育が生徒指導のみならず、広く生徒の人間形成に意義ある役割を果たした。 ・学校評価アンケートにおいて生徒・保護者ともに肯定的な回答数の方が多かった。		a	・茶道や華道等の授業形態に関しては極めて高い評価を生徒から得ていた。継続維持。 ・他の宗立宗門校を参考に宗教行事の再開（コロナ以前の状況）	・よく挨拶をしてくれるという印象で普段の指導が反映している。		
・本校では学習活動においてICTを用いて、情報を整理・比較し、得られた情報をわかりやすく発信・伝達したりする取り組みをすでにやっているが、教科指導においても日常的にICTを活用した授業を行い、生徒の学習効率を高めることが課題である。	・情報端末やICT機材を用いて、画像、音声、動画などを提示し、視覚的にわかりやすい授業を行い、学習課題への理解を深めることができたか。 ・情報端末やICT機材を活用して課題の配信、提出を日常的に行うことができたか。	・ICTを活用した教科課題を作成し、授業内での配信、課外学習としての配信を行う。 ・通常の板書だけでなくプロジェクターを用いて視覚的な理解を促す授業を展開する。 ・学習効果の高い解説動画を活用する。	・クラッシー、ロイロノート、スタディサブリの活用状況を検証する。 ・教科会議などでICTを活用した教科指導の取り組みを検証する。	・修学旅行の事前指導、深谷アンバサダーにおける発表資料など、あるゆる場面でタブレット活用が継続された。今年度はスタディサブリを導入し、学習指導や進路指導において新たな活用がなされた。 ・英語科などでは多くの授業でプロジェクターを用いて、視覚的に授業内容の解説が行われた。			a	・本校の特徴の一つである探究型活動でのICT機器の効果的な活用の継続発展。 ・ベネッセの模擬試験とクラッシーとの連動、リクルートの到達度テストとスタディサブリとの連動を行い、学習指導におけるICTの一層の活用。 ・反転学習も含めて学力増進につながる活用法の研究実施。	・ICTを用いたコミュニケーション能力を育成できる取り組みを増やしてほしい。	